

## 天文台長の製品検分録「其の壱 TEC APO110FLの巻」

のせ通信天文台長が独断と偏見を交えての検分録、参考になれば幸甚です。

このたびユーザー様のご要望により、TEC社製APO110FLを検分する機会を与えられましたのでご紹介します。

### TEC (Telescope Engineering Company)

TECは米国アリゾナ州ゴールドエン市にある、1994年創業の新しい望遠鏡メーカーです。代表のユーリ・ペトルーニン氏はロシア系米国人で、創業当初ロシアのリトカリノ、ロモの代理店として米国の研究機関等と取引を開始しました。

その後自社工場を開設、15~25cm マクストフ望遠鏡を生産、その存在が一躍天文家の知るどころとなり、現行の110,140,160,180mmAPOシリーズは、APM/Izosと双璧との評価を得て、世界中の屈折ファンから支持されています。



APO-110FL とユーリ氏



APO-110FL と専用セミハードケース

### APO110FL F/5.6の実況検分

性能・諸元	
光学系	フローライト・トリプレットアポクロマート
有効径	110 mm
焦点距離	616 mm
口径比 (写真開口比)	F/5.6
分解能 (理論値)	1.0 秒角
鏡筒外径	112.8 mm
鏡筒長 (フード収納時)	482 mm
本体重量	4.5 kg

今や絶滅種となりつつあるフローライト（蛍石）を中央に配置したトリプレット・アポクロマートを採用しています。国産では高橋製作所とボークがキヤノンオプトロンから唯一フローライトレンズが供給され採用しています。

まず梱包の段ボール箱からオプションのセミハードケース取り出すと、TECのロゴが目に入ります。バッグのブランド”TENBA”製の上等な仕上げで専用品らしいフィット感が抜群です。初期ロットはハードケースが付属していましたが、中国製アルミケースの品質がユーザーの不評を買ったようで、オプションながら品質にこだわったのがこのセミハードケースとのことです。

ケースから鏡筒本体のハンドルを握って慎重に取り出すと、小振りなわりに4.5kgの重量感が伝わり、製品としての凝縮感もAPM/Izosに勝るとも劣らない出来栄です。フードは伸縮式で褶動はやや固めですが、経年の使用で馴染むと思われま



外観はユリ氏が手にしている写真の初期ロット品とは異なり、現在はフードが白色に統一されています。

鏡筒バンドはクライムシェルと呼ばれる蝶番分割式で、旅行バッグ等に用いられる特殊な留め金でロックします。バンド下部中心に3/8 48mm間隔で2ヶ所1/2 のカメラネジがありカメラ三脚等に取付できますが、当社では架台搭載のために KYOEI 汎用アリミゾプレート DX や市販プレートの取付加工を行いますのでご相談下さい。



フロントキャップはフードに嵌め込み、リアキャップはアルミ削出で2インチスリーブに挿入する何れもロゴ入りの凝った造りです。2インチスリーブはリング締付けによる、い

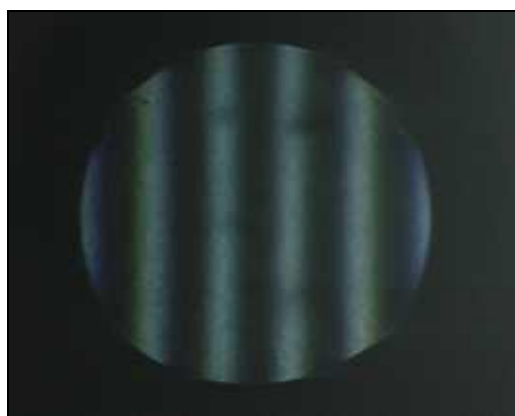
わゆるチャック構造で、但し 31.7mm アイピースの装着は、別途 2 インチ 31.7mm アダプタが必要となります。



接眼部はラックピニオンによる特筆に値する円滑な繰出しです。ドロチューブにはスケールが刻印され、ピントの再現性が容易に行えます。ピニオンハンドルには、1/10 減速微動（金色のハンドル）が付帯され前後の遊びを感じさせない精巧な構造です。

接眼部にはファインダー取付ネジや大元に回転機構があり、チャック構造で任意の角度に合わせることができます。

対物レンズはオイルスペースと BBAR 特殊コーティングの相乗効果により、表面反射が少なく透明感があります。



さていよいよ肝心な見え味を検分しましょう。人工星とロンキーテスターを使用して検分したのが左の写真です。焦点内外像ともに光学性能が優秀であることをあらわす素直なロンキーイメージです。次に手持ちの小型赤道儀に 110FL を同架して実視による検分を行いましょう。写真は VIXEN 製スーパーポラリス赤道儀ですが、コンパクトな鏡筒は小型赤道儀でも観望程度なら十分使用できることを付け加えます。

テスト星はベガと土星を選びました。まずベガを導入して焦点内外像と焦点像を検分、

予想どおりの対称性を示すイメージです。次に土星を PL6.5 ミリに 2.8×バーロー265 倍で検分、合焦位置がかなり外側にあるので天頂プリズムを併用しました。長焦点と遜色のないシャープな土星を暫し時間を忘れて堪能しました。

### 総括

全体に丁寧なつくりで、かつ精巧に仕上がっており、特に Made in USA に拘っています。見え味は F5.6 の短焦点にも関わらず色収差を感じない鋭像は、流石！蛍石で屈折ファンが一目惚れする逸品と言えます。今回、撮像による検分は行っていませんが、オプションでデジタル対応のフラットナーが用意されています。

日本国内でのユーザーはまだ少なく、自慢の愛機を携えて星祭りに出かけてみてはいかがでしょうか。